

図書館だより 11月号

図書館利用時間:平日(開校日)午前9時～午後4時

11月の「読書会」は11月13日(木)13時30分からです。

『図書館だより11月号』をお届けします。
今月のキーワードは「積読(つんどく)」です。

小川・植木雅史

きちんと読まない本が増えて行く「積読」は何かしら後ろめたい響きを持つ言葉ですが、でも、「積読」でいいんですよ。本を最後まで読み通す力がない私は、関心・興味のあるページからしか手がつかず、結果、「積読」となることが多いのです。「苦手の読書が好きになる!」ゼロからの読書教室「NHK出版」に、いろんな読書のしかたが載っていました。

「通読」順番通りに読む

「予読」役立つかどうか見当をつけるために素早く読む

「転読」必要なページを見つけるため高速めぐりで読む

「掬読(きくどく)」必要なところだけを掬(すく)い取るように読み進める

「問読」問いを立てて答えを探しながら読む

「刻読」問いを立てて答えのヒントになりそうなところに付箋を貼って読み進める

「再読」あとから読み返す …等々。

目的によって読み方はいろいろあるわけですが、本の中で、いい表現やすてきな文節に出会うことができいいのです。この本『苦手の読書が好きになる…』の中に、「別に全部読まなくてもよい」というフレーズがあり、なるほど

と、思いました。

「本と呼ばれる」ということがあります。本を読んだ後で、「あ、この本が今の自分に必要だったんだ」と気づくのです。興味深いです。手を伸ばせば届くところに「積読本」があるのは、きつと、どれかの本が「その時」を待っているのです。本との出会いは面白いものですね。忙しい日常の中で、そのときの自分に合った読書方法を見つけてください。

「再読は楽しい!」

森岡直子(村おこし協力隊)

中学生のとき、古本屋で『赤毛のアンのお菓子絵本』を見つけました。赤毛のアンに出てくるお菓子をレシピに起こした本で、その本を片手に、キャロットケーキやクッキー、パウンドケーキなど、材料が簡単に入手できれば作ってみたものです。作れなくても、レシピに書いてある材料を見ながら「どんな味になるんだろうな?」と想像して楽しんでいた若かりし頃の私です。

その後、一度は処分した本ですが、大人になり、また作りたくなってネットで古本を入手しました。でも、そのまま「積読本」となり、広島から王滝村まで持ってきていたのです。そして、9月の読書会を機に「再読!」また、お菓子作り熱が再燃しました。本が手元にあることで、当時のことを思い返して懐かしんだり、もちろん、レシピも再確認できます。

ネットの料理サイトでレシピを検索するのとは違うんですよ。これが、最近の私の楽しみです。

もう一つ、10月の読書会では、参加者の中に、『赤毛のアン』の舞台のカナダのプリンス・エドワード島に夫婦で旅行したかたがいて、大いに盛り上がりました。



外海君子 編

ドナルド・ヘンドリックス 画

主婦の友社 出版

～図書館利用のご案内～

村図書館(学校図書館内)は村民の皆様の交流の場として開放しています。

出入口 コミュニティールーム、学校正面玄関どちらからも利用できます。(図書館を利用の場合は直接図書館にお越しください)

～初めての利用される方へ～

村民の方ならどなたも無料で利用できます。

借り方・返し方など利用案内は図書館で説明しますのでお気軽にお越しください。絵本もたくさん入っていますので、小さなお子さんも是非一緒にお出かけください。

図書館にない本や読みたい本などリクエストも随時受け付けております。

新刊本

書名	著者	出版社
星の花【湿原に暮らす灰色の瞳を持つ少女。隠すために遮光眼鏡をかけていたが、その瞳には大きな秘密が隠されており過去への扉が開かれていく。戦前戦後のある家族の物語。】	濱野京子	静山社
しじんのゆうびんやさん【ちいさなまちで、とどきはじめて、ふしぎな「てがみ」が人々のところをやわらかに動かしていく】	斎藤 倫	偕成社
その本はまだリユールされていない【本が好きな人が読んだら本が愛おしくなる本】	坂本 葵	平凡社
星の教室【義務教育を修了できなかった人々が集う夜間中学を舞台にした物語】	高田 郁	角川春樹事務所
絵本 えかきになりたいねずみくん	なかえ よしお	ポプラ社
大人オススメ絵本 世界をもっとうつくしく【世界をもっと美しくするために何をしたらいいの】	アンジェラ・バーク・クンケル	ほるぶ出版
白さぎ【自然の圧倒的な力をバーバラ・クーニー絵・石井桃子の名訳で味わう】	セアラ・アーン・ジュエット	のら書房

雑誌

書名	出版社
天然生活 11月号	扶桑社
暮らしの手帖 10—11月号	暮らしの手帖社
毎日をたのしむ天然素材のニット	ブティック社
365日毎日着たい手編みのベスト	ブティック社
この本読んで！ 2025年秋	出版文化産業振興財団

